

漢詩

「雑詩

十二種

其の一

陶淵明

じんせい

こんていな

人生

根蒂無く

ひょう

はくじょう

ちり

ごと

瓢として陌上の塵の如し

ぶんさん

かぜ

したが

てん

分散し風に随いて転ず

こ

すで

じょうしん

あら

此れ已に常身に非ず

ち

お

けいてい

な

地に落ちては兄弟と成る

なん

かなら

こつにく

しん

何ぞ必ずしも骨肉の親のみならんや

かん

え

まさ

たの

な

歡を得なば当に楽しみを作すべく

としゆ

ひりん

あつ

斗酒もて比隣を聚めん

せいねん かせき  
盛年 重ねては来たらず

いちじつ ふたた あした がた  
いちじつ ふたたび 明日は来たらず

ひと ひと まさ べんれい  
一日 再び 農なり難し

とき およ まさ べんれい  
とき およ 明日は来たらず

さいげつ ひと ま  
時に及んで当に勉励すべし

さいげつ ひと ま  
さいげつ ひと ま

さいげつ ひと ま  
歳月 人を待たず

\*中国・陶淵明（三六五〜四二七）

【参考資料】

- ・『陶淵明詩選』石川忠久著（日本放送出版協会）
- ・『陶淵明（中国の古典）』釜谷武志著（角川書店）
- ・『図説漢詩の世界』山口直樹著（河出書房新社）